

# 0.1% ハイジール水

開封日 年 月 日

# 0.1% ハイジール水

# 0.1% ハイジール水

**【薬効概要】**

本剤は使用濃度において、球菌型細菌(グラム陽性菌、グラム陰性菌)、結核菌、一部の真菌等には有効であるが、大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。なお、結核菌に対しては使用濃度、消毒時間に注意する。

**【取扱上の注意】**

**1.安定性試験**

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、75%RH、7ヵ月)の結果、0.1%ハイジール水は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

2.次の医薬品等が混入すると沈澱を生じるので注意すること。  
ヨードチンキ、マーキュロクロム、硝酸銀、フェノール、過酸化水素、過マンガン酸カリウム等

3.開封前及び開封後は、微生物による汚染に注意すること。

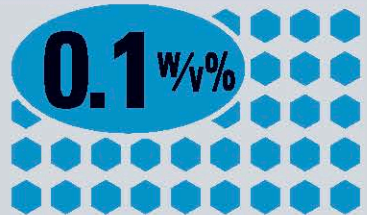
4.本剤は滅菌製剤のため、開封後は速やかに使用すること。

**外用殺菌消毒剤(滅菌製剤)**

# 0.1w/v% ハイジール水®

0.1w/v% Hygieel® Water

アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩製剤



500mL

製造番号

使用期限

販売元

Ⓔ 丸石製薬株式会社

大阪市東区今津中2-4-2

製造販売元

日興製薬株式会社

岐阜県羽鳥市江吉良町1593



製造番号



製造番号

使用前、フィルムをはがしてキャップをはずした後、空容器を逆のようにして新しい目を外側に押しつぶして下さい。



キャップ: PP  
ボトル: PP  
ラベル: PS

2014年10月改訂(第3版)	
日本標準商品分類番号	872619
承認番号	21500AMZ00197
薬価収載	2003年7月
販売開始	2003年8月
再評価結果	1982年8月

貯法: 遮光し、室温保存  
使用期限: 3年(表示の使用期限を参照すること。)

注意: 取扱上の注意の項参照

**【組成・性状】**

**1.組成**

アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩0.1w/v%  
及び添加物としてpH調整剤 含有。

**2.性状**

無色～微黄色透明の液で、わずかに特異臭においがあ  
る。  
比重の密: 約1.00  
pH: 7.0~9.0

**【効能・効果】 【用法・用量】**

アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩として下記の濃度にな  
るように水で希釈し、又はそのまま、次のように使用する。

効能・効果	用法・用量
医療機器の消毒	0.05~0.1%溶液に10~15分 間浸漬する。 なお、結核菌域において、本剤は 用いない。
手術室・病室・家具・器具・ 物品などの消毒	0.05~0.1%溶液を布片で塗布・ 拭拭するか、又は噴霧する。なお、 結核菌域において、本剤は用い ない。
手指・皮膚の消毒	0.05~0.1%溶液で約5分間洗っ た後、滅菌ガーゼあるいは布片で 拭拭する。
手術部位(手術野)の粘 膜の消毒、皮膚・粘膜の創 傷部位の消毒	0.01~0.05%溶液を用いる。

**【用法・用量に関する使用上の注意】**

本剤の各適応に対する使用濃度は上記とされているが、その  
使用濃度にあたっては、再評価結果に留意すること。  
(アルキルポリアミノエチルグリシンの再評価結果)

アルキルポリアミノエチルグリシンとして下記の濃度になる  
ように水で希釈して、次のように使用する。

**1.手指・皮膚の消毒**

0.05~0.2%溶液で約5分間洗った後、滅菌ガーゼあるいは  
布片で拭拭する。

【効能・効果】 【用法・用量】 つづく

- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒  
0.1%溶液で約5分間洗った後、0.2%溶液を塗布する。
- 手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の  
消毒  
0.01~0.05%溶液を用いる。
- 医療機器の消毒  
0.05~0.2%溶液に10~15分間浸漬する。
- 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒  
0.05~0.2%溶液を布片で塗布・拭拭するか、又は噴霧する。  
なお、結核菌域において、上記4、5に用いる場合は0.2~0.5  
%溶液を用いる。

**【使用上の注意】**

- 重要な基本的注意  
(1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。  
(2) 炎症又は刺激性の部位に使用する場合に、濃度に  
注意して、正常の部位に使用するよりも低濃度とするこ  
とが望ましい。また、使用後は滅菌精製水で水洗するこ  
と。  
(3) 深い創傷に使用する希釈水溶液は、開封後滅菌処理す  
ること。
- 副作用  
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調  
査を実施していない。  
過敏症: 発疹、そう痒感等の過敏症状(0.1~5%未満)があ  
らわれることがあるので、このような場合には使用  
を中止すること。
- 臨床検査結果に及ぼす影響  
本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル  
酸法による尿蛋白試験で偽陰性を示すことがある。
- 適用上の注意  
(1) 投与経路: 外用にのみ使用すること。  
(2) 使用時:  
1) 粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用  
しないこと。  
2) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させる  
ので、これらが付着している医療器具等に用いる場  
合は、十分に洗い落としてから使用すること。  
3) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石け  
ん分を洗い落とすしてから使用すること。  
4) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐蝕  
を防止するために0.1~0.5%の割合で亜硝酸ナト  
リウムを溶解すること。  
5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤を  
吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合に  
は、有効濃度以下とならないように注意すること。  
6) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使  
用時に溶液に浸すこと。